

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

膵がんに対する補助化学療法に関する研究

平成 17 年度 総括研究報告書

主任研究者 小菅智男

平成 18 (2006) 年 4 月

目 次

I .総括研究報告書	
膵がんに対する補助化学療法に関する研究	1
II .研究成果の刊行に関する一覧表	19
III .研究成果の刊行物・別刷	29

膵がんに対する補助化学療法に関する研究

主任研究者 小菅智男 国立がんセンター中央病院 部長

研究要旨

予後不良な膵癌切除症例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を検討するために、全国 10 施設による多施設共同無作為化比較試験を計画した。試験の概要は次の通りである。対象：浸潤性膵管癌の肉眼的治癒切除症例。比較条件：術後補助化学療法の有無。化学療法の方法：ゲムシタビン 1000mg/m²を週 1 回 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとして 3 コース行う。前層別因子：施設、進行度、根治度。主要評価項目：生存期間、無再発期間。副次的評価項目：化学療法に関連した有害事象。平成 16 年度末までに目標症例数を集積し、新規症例の登録を打ち切った。平成 18 年度まで追跡データの収集を行った後に最終解析の予定である。

分担研究者

砂村 眞琴	東北大学大学院医学系研究科 講師
羽鳥 隆	東京女子医科大学病院 准講師
山本 順司	癌研究会附属病院 副部長
中尾 昭公	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
土井 隆一郎	京都大学大学院医学研究科 講師
門田 守人	大阪大学大学院医学系研究科 教授
島田 光生	徳島大学医学部 教授
田中 雅夫	九州大学大学院医学研究院 教授
金光敬一郎	熊本大学医学部 講師
松山 裕	京都大学大学院医学研究科 助教授
上野 秀樹	国立がんセンター中央病院 医員

も切除率は低く、また切除された例でも遠隔成績は不良である。膵癌による死亡数は年々増加しており、有効な治療法を確立することは国民的な課題である。これまで、切除可能症例に対しては、手術療法に化学療法や放射線療法などの補助療法を加えた集学的治療が試みられてきた。しかし、膵癌切除例を対象として行われた補助療法の無作為化比較試験は少なく、その結果は一定していない。アメリカでは 1985 年に GITSG による多施設共同無作為化比較試験の結果、外照射と 5-FU による放射線化学療法が膵癌治癒切除例に対する補助療法として有効とされ、以後これが膵癌切除例に対する標準治療とされてきた。しかし、最近、ヨーロッパで 2 つの大規模な国際共同研究が行われ、どちらも放射線化学療法の有効性を確認できなかった。一方、化学療法単独の補助療法に関する多施設共同無作為化比較試験は 1993 年に AMF 療法を用いてノルウェーで行われたものが報告されたのみであり、しかもその結果はいまいなものであった。したがって、現時点で

A. 研究目的

膵癌は早期診断の困難な疾患であり、今日で

は、膵癌の切除例に対して標準とするべき補助療法は確立していないといえる。

一方、切除不能な膵癌に対する化学療法では、近年、塩酸ゲムシタビン（以下ゲムシタビン）が注目を集めている。ゲムシタビンは代謝拮抗剤に分類される抗悪性腫瘍剤であり、細胞内で三リン酸化物に代謝され、DNA 合成を阻害することによって固形がんに対する殺細胞効果を発揮する。米国およびカナダで実施された第Ⅲ相無作為化比較試験では、ゲムシタビンによる症状緩和効果が 5-FU より有意に高率であることが示され、また、生存期間の延長に関してもゲムシタビンのほうが優れていると結論付けられた。米国ではこうした成績をもとにして 1996 年に進行膵癌に対する適応が承認され、本邦でも 2001 年 4 月から膵癌に対する適応が認められた。

以上のように、ゲムシタビンは効果ばかりでなく副作用の面でもこれまで標準的に用いられてきたフルオロウラシルよりも優れており、侵襲の大きな膵癌切除手術後に併用する補助化学療法剤として有望な薬剤と考えられる。そこで、本剤を用いた術後補助化学療法の有用性を評価するための臨床試験を計画した。

B. 研究方法

膵癌切除例に対するゲムシタビンを用いた術後補助化学療法の有用性を明らかにするため、以下の内容で研究を行うこととした。

肉眼的治癒切除が行われた浸潤性膵管癌の症例で安全性を維持するために設けられた登録基準を満たしたものを対象として、補助化学療法の有無による治療成績の比較を行う。過去に行われた研究の結果から、単施設での症例集積は困難と予想されるため、多施設共同研究とし、試験の方法は、最も信頼性が高いとされる無作為化比較試験とする。症例の登録は、術後 3 週から 10 週の間登録条件が満たされていることを確認した上で行う。治療成績に影響を及ぼす可能性が高い、施設・腫瘍の進行度・手

術の根治度の 3 要素について偏りが生じないように、これらを前層別因子として動的割付けによる無作為化を行う。主要評価項目は、登録時点からの生存期間および無再発期間とし、補助化学療法による有害事象を副次的評価項目とする。補助化学療法としては、ゲムシタビン 1000mg/m² を 1 週間に一度ずつ 3 週連続で経静脈的に投与し、1 週休止するのを 1 コースとし、合計で 3 コース行うこととする。倫理面の配慮として、研究対象者には研究の具体的内容、予想される利益と不利益、研究への参加や同意の撤回に関する自由、人権の擁護、費用の負担などについて詳細に説明した文書を渡した上で口頭による説明を行い、文書による同意を得ることとする。また、それぞれの研究実施施設において倫理審査委員会に研究実施要綱を提出し、その承認を得ることを必須とする。

C. 研究結果

本研究への参加が可能であった全国の主要な膵癌治療医療機関 10 施設、臨床統計家、症例登録センター、モニタリング委員会から構成される研究組織を整え、平成 14 年 6 月から症例の登録を開始した。平成 17 年 3 月 31 日までに 119 例が登録され目標症例数を上回ったため、新規症例の登録を打ち切った。現在は、追跡データを集積中である。2 年間の追跡期間経過後に最終解析を行う予定である。

D. 考察

本研究では、2 年生存率に約 20% 以上の差があった場合の検出力を 80% に設定して目標症例数を 100 例と算出した。試験の感度については必ずしも十分とは言えないものの、この分野における過去の経験や報告から現実的な値として設定した。結果的には、比較的順調に症例を集積することができたので、将来同種の研究を行う場合には、より感度の高い設定でも実施できる可能性が示唆されたものと考えられる。

ゲムシタビンの投与方法は標準的な治療投与方法に従った。投与回数の設定については、十分な効果を得るために長期に投与する方法も議論されたが、無効な場合、術後生存期間は短いことが予想されるため、補助療法の期間としては3カ月程度が妥当であるとの結論に至った。

ゲムシタビンによる補助化学療法の有用性に関しては、本研究だけでなく、ヨーロッパでも類似した試験が進められているので、近い将来にはそれらを比較して総合的な結論が得られると期待される。これらが相反する結果にならないければ、難治がんの代表的存在である膵癌の切除症例に対して初めて標準的な治療が確立する可能性がある。逆に有用性が証明されなければ、効果の少ない治療を行うことによる患者の不利益と医療経済上の不利益を避けることができる。

E. 結論

これまでのところ、研究は順調に進展している。膵癌の術後補助化学療法に関してはこれまでエビデンスが乏しかったため、本試験を完遂できる見通しがついたことの意義は大きいと。

F. 健康危険情報

本年度は健康危険に関する情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

外国語論文

- 1) Shimada K, Kosuge T, et al. Safe Management of the Pancreatic Remnant with Prolamine Duct Occlusion after Extended Pancreaticoduodenectomy. *Hepato-Gastroenterology* 52:1874-1877, 2005.
- 2) Shimada K, Kosuge T, et al. A Long-Term Follow-up and Management Study of Hepatocellular Carcinoma Patients Surviving for 10 Years or Longer

after Curative Hepatectomy. *CANCER* 104:1939-1947, 2005.

- 3) Peng D, Kosuge T, et al. Increased DNA methyltransferase 1 (DNMT1) protein expression in precancerous conditions and ductal carcinomas of the pancreas. *Cancer Science* 96:403-408, 2005.
- 4) Shimada K, Kosuge T, et al. Safety and Effectiveness of Left hepatic Trisegmentectomy for Hilar Cholangiocarcinoma. *World Journal of Surgery* 29:723-727, 2005.
- 5) Esaki M, Kosuge T, et al. Surgical Results for Hepatocellular Carcinoma With Bile Duct Invasion :A Clinicopathologic Comparison Between Macroscopic and Macroscopic Tumor Thrombus. *Journal of Surgical Oncology* 90:226-232, 2005.
- 6) Nitatori N, Kosuge T, et al. Prognostic Significance of Tissue Factor in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. *Clin Cancer Res* 11:2531-2539, 2005.
- 7) Sakamoto Y, Kosuge T, et al. Prognostic factors of surgical resection in middle and distal bile duct cancer:An analysis of 55 patients concerning the significance of ductal and radial margins. *Surgery* 137:396-402, 2005.
- 8) Nunobe S, Kosuge T, et al. Surgery Including Liver Resection for Metastatic Gastrointestinal Stromal Tumors or Gastrointestinal Leiomyosarcomas. *Jpn J Clin Oncol* 35:338-341, 2005.
- 9) Hata T, Sunamura M, et al. RNA Interference Targeting Aurora Kinase A Suppresses Tumor Growth and Enhances the Taxane Chemosensitivity in Human Pancreatic Cancer Cells. *Cancer Res*

- 65:2899-2905, 2005.
- 10) Akada M, Sunamura M, et al. Intrinsic chemoresistance to Gemcitabine is associated with decreased expression of BNIP3 in pancreatic cancer. *Cin Cncr Res* 11:3094-3101, 2005.
 - 11) Xu S, Sunamura M, et al. Abrogation of DUSP6 by Hypermethylation in Human Pancreatic Cancer. *J Hum Genet* 50:159-167, 2005.
 - 12) Furukawa T, Sunamura M, et al. Distinct progression pathways involving the dysfunction of DUSP6/MKP-3 in pancreatic intraepithelial neoplasia and intraductal papillary-mucinous neoplasms of the pancreas. *Mod Pathol* 18:1034-1042, 2005.
 - 13) Okada T, Sunamura M, et al. Immune responses to DNA mismatch repair enzymes hMSH2 and hPMS1 in patients with pancreatic cancer, dermatomyositis and polymyositis. *Int J Cancer* 116:925-933, 2005.
 - 14) Shimamura S, Sunamura M, et al. Irradiated pancreatic cancer cells undergo both apoptosis and necrosis, and could be phagocytized by dendritic cells. *Eur Surg Res* 37:228-324, 2005.
 - 15) Saito Y, Sunamura M, et al. Oncolytic replication-competent adenovirus suppresses tumor angiogenesis through preserved E1A region. 2005 Sep 23; [Epub ahead of print]. *Cancer Gene Ther*, 2005.
 - 16) Furukawa T, Sunamura M, et al. Classification of Types of Intraductal Papillary-Mucinous Neoplasm of the Pancreas: a Consensus Study. *Virchows Arch.* 447: 794-799, 2005
 - 17) Crnogorac-Jurcevic T, Sunamura M, et al. Proteomic analysis of chronic pancreatitis and pancreatic adenocarcinoma. *Gastroenterology* 129:1454-1463, 2005.
 - 18) Furukawa T, Sunamura M, et al. Molecular mechanisms of pancreatic carcinogenesis. *Cancer Sci* 97:1-7, 2006.
 - 19) Okada T, Sunamura M, et al. A novel cancer testis antigen that is frequently expressed in pancreatic, lung, and endometrial cancers. *Cin Cncr Res* 12:191-197, 2006.
 - 20) Kang X, Sunamura M, et al. Antiangiogenic activity of BAI1 in vivo: implications for gene therapy of human glioblastomas. *Cancer Gene Ther.* 2005 Oct 21; [Epub ahead of print]. *Cancer Gene Ther*, 2005.
 - 21) Seki M, Yamamoto J, et al. Image-diagnostic features of mature cystic teratomas of the pancreas: report on two cases difficult to diagnose preoperatively. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 12:336-340, 2005.
 - 22) Yamamoto J, et al. Surgical treatment for metastatic malignancies. Nonanatomical resection of liver metastasis: indications and outcomes. *L. Int J Clin Onco* 10:97-102, 2005.
 - 23) Nakamura Y, Nakao A, et al. Inflammatory myofibroblastic tumor (inflammatory fibrosarcoma) of the pancreas: a case report. *Hepato-Gastroenterology* 52:625-628, 2005.
 - 24) Sakai M, Nakao A, et al. Para-aortic lymph node metastasis in carcinoma of the head of the pancreas. *Surgery* 137:606-611, 2005.
 - 25) Kure S, Nakao A, et al. Analysis of long-term survivors after surgical

- resection for invasive pancreatic cancer. *HPB* 7:129-134, 2005.
- 26) Sakai M, Nakao A, et al. Transhepatic portal venous angioplasty with stenting for bleeding jejunal varices. *Hepato-Gastroenterology* 52:749-752, 2005.
- 27) Tezel E, Nakao A, et al. Intraportal endovascular ultrasound for portal vein resection in pancreatic carcinoma. *Hepato-Gastroenterology* 52:237-242, 2005.
- 28) Sugimoto H, Nakao A, et al. Hepatobiliary and pancreatic: Aberrant left gastric vein. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 20:155, 2005.
- 29) Nakao A, et al. Is pancreaticogastrostomy safer than pancreaticojejunostomy? *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery* (in press 2005)
- 30) Toyoda E, Doi R, et al. Analysis of E-, N-cadherin, a-, b- and g-catenin expression in human pancreatic cancer. *Pancreas* 30:168-173, 2005.
- 31) Lyshchik A, Doi R, et al. Dual-phase (18)F-fluoro-2-deoxy- d-glucose positron emission tomography as a prognostic parameter in patients with pancreatic cancer. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 32:389-397, 2005.
- 32) Imamura M, Doi R, et al. New pancreas-preserving total duodenectomy technique. *World J Surg* 29:203-207, 2005.
- 33) Doi R, et al. Impact of reconstruction methods on outcome of pancreatoduodenectomy in pancreatic cancer patients. *World J Surg* 29:500-4, 2005.
- 34) Mori T, Doi R, et al. Regulation of the resistance to TRAIL-induced apoptosis as a new strategy to pancreatic cancer. *Surgery* 138: 71-77, 2005.
- 35) Kami K, Doi R, et al. Down-regulation of survivin by siRNA diminishes radioresistance of pancreatic cancer cells. *Surgery* 138: 299-305, 2005.
- 36) Koizumi M, Doi R, et al. Pancreatic epithelial cells can be converted into insulin-producing cells by GLP-1 in conjunction with virus-mediated gene transfer of pdx-1. *Surgery* 138: 125-133, 2005.
- 37) Kataoka K. Doi R, et al. Expression and prognostic value of tuberous sclerosis complex 2 gene product tuberin in human pancreatic cancer. *Surgery* 138: 54-59, 2005.
- 38) Tomita T, Doi R, et al. GPR40 gene expression in human pancreas and insulinoma. *Biochem Biophys Res Commun* 338: 1788-1790, 2005.
- 39) Oya N, Doi R, et al. Chemoradiotherapy in Patients with Pancreatic Carcinoma: Phase-I Study with a Fixed Radiation Dose and Escalating Doses of Weekly Gemcitabine. *Pancreatology* 6: 109-116, 2005.
- 40) Furuyama K, Doi R, et al. Focal adhesion kinase is not a prognostic factor in pancreatic cancer patients. *World J Surg* 30:219-26, 2006.
- 41) Ito D, Doi R, et al. In vivo antitumor effect of the mTOR inhibitor CCI-779 and gemcitabine in xenograft models of human pancreatic cancer. *Int J Cancer* 118:2337-2343, 2006.
- 42) Fukuda A, Doi R, et al. Loss of major duodenal papilla results in brown

- pigment biliary stone formation in pdx1 null mice. *Gastroenterology* (in press). 2006.
- 43) Terada T, Doi R, et al. Expression profiles of various transporters for oligopeptides, amino acids and organic ions along the human digestive tract. *Biochem Pharmacol Biochemical Pharmacology* 70(12): 1756-1763, 2005.
- 44) Yamaguchi K, Tanaka M, et al. Radiation therapy, bypass operation and celiac plexus block in patients with unresectable locally advanced pancreatic cancer. *Hepato Gastroenterol* 52:1605-1612, 2005.
- 45) Manabe T, Tanaka M, et al. New infusion device for trans-tissue, sustained local delivery of anticancer agent to surgically resected tissue: potential use for suppression of local recurrence of pancreatic cancer. *J Biomed Mater Res B Appl Biomater* 73:203-207, 2005.
- 46) Murakami M, Tanaka M, et al. Suppression of metastasis of human pancreatic cancer to the liver by transportal injection of recombinant adenoviral NK4 in nude mice. *Int J Cancer* 117:160-165, 2005.
- 47) Takamori H, Kanemitsu K, et al. 5-Fluorouracil intra-arterial infusion combined with systemic gemcitabine for unresectable pancreatic cancer. *Pancreas* 30:223-226, 2005.
- 48) Takamori H, Kanemitsu K, et al. Identification of prognostic factors associated with early mortality after surgical resection for pancreatic cancer-Under-analysis of cumulative survival curve. *World J Surg* 30:213-218, 2006.
- 49) Inoue K, Kanemitsu K, Takamori H, et al. Onset of liver metastasis after histologically curative resection of pancreatic cancer. *Surg Today* 36:252-256, 2006.
- 50) Chiba Y, Matsuyama Y, et al. A simulation study for a linear measurement error model when error variances vary between measurements. *Journal of Agricultural, Biological, and Environmental Statistics*. 10:118-130, 2005.
- 51) Mizuno S, Matsuyama Y, et al. Overlap coefficient for assessing the similarity of pharmacokinetic data between ethnically different populations. *Clinical Trials* 2:174-181, 2005.
- 52) Matsuyama Y, et al. Estimation of the average causal effect among subgroups defined by post-treatment variables. *Clinical Trials* 3:1-9, 2006.
- 53) Ueno H, et al. An early phase II study of S-1 in patients with metastatic pancreatic cancer. *Oncology* 68:171-178, 2005.
- 54) Ueno H, et al. A phase I study of combination chemotherapy with gemcitabine and oral S-1 for advanced pancreatic cancer. *Oncology* 69:421-427, 2005.
- 55) Ikeda M, Ueno H, et al. A phase II trial of continuous infusion of 5-fluorouracil, mitoxantrone and cisplatin for metastatic hepatocellular carcinoma. *Cancer* 103:756-762, 2005.
- 56) Ikeda M, Ueno H, et al. A phase II trial of Uracil-tegafur (UFT) in patients with advanced biliary tract carcinoma. *Jpn J Clin Oncol* 35:439-443, 2005.
- 57) Morizane C, Ueno H, et al. Chemoradiotherapy for locally advanced

- pancreatic carcinoma in elderly patients. *Oncology* 68:432-437, 2005.
- 58) Yonemori K, Ueno H, et al. Severe drug toxicity associated with a single-nucleotide polymorphism of the cytidine deaminase gene in a Japanese cancer patient treated with gemcitabine plus cisplatin. *Clin Cancer Res* 11:2620-2624, 2005.
- 59) Saisho T, Ueno H, et al. Prognostic factors in patients with advanced biliary tract cancer receiving chemotherapy. *Hepato-Gastroenterol* 52:1654-1658, 2005.
- 60) Furuse J, Ueno H, et al. Phase I study of fixed dose rate infusion of gemcitabine in patients with unresectable pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol* 35:733-738, 2005.
- 61) Takezako Y, Ueno H, et al. Phase II study of cisplatin, epirubicin and continuous infusion of 5-fluorouracil in patients with advanced intrahepatic cholangiocellular carcinoma. *Hepato-Gastroenterol*, 2005 (in press)
- 5) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 特集: 肝門部胆管癌-手術と成績 I. 術前処置の意義とエビデンス 2. 門脈塞栓術. *外科* 67:749-754, 2005.
- 6) 小菅智男, 他. 特集: 最新の膵癌の診断と治療 集学的治療法. *消化器外科* 28:201-205, 2005.
- 7) 小菅智男, 他. 膵癌・胆道癌の診断と治療—最新の研究動向— A. 膵癌 VII. 膵癌の治療 膵癌の外科治療. *日本臨床* 64:186-189, 2006.
- 8) 林 和彦, 羽鳥 隆, 他. 進行・再発膵癌の治療/化学療法—TS-1. *日本臨床* 64:194-96, 2005.
- 9) 羽鳥 隆, 他. IPMN 外科的切除術後の経過観察方針. *膵臓* 20:538-545, 2005.
- 10) 梶 理史, 羽鳥 隆, 他. 7年の経過後に切除した膵管内乳頭腺癌由来の浸潤癌の1例. *膵臓* 20:39-45, 2005.
- 11) 羽鳥 隆, 他. IPMN と MCN の形態的特徴からみた外科治療. *消化器科* 40:550-558, 2005.
- 12) 羽鳥 隆, 他. 膵癌 (頭、鉤状突起部) 手術での門脈切除の適応は?. *胆と膵* 26:321-329, 2005.
- 13) 齋浦明夫, 山本順司, 他. 消化器癌肝転移に対する外科治療. *臨床消化器内科* 20:183-188, 2005.
- 14) 山本順司, 他. 膵癌治療のプロトコール. *臨床外科* 60:223-226, 2005.
- 15) 齋浦明夫, 山本順司, 他. 再発大腸癌の治療/肝転移 大腸癌肝転移に対する切除療法. *消化器外科* 28:890-895, 2005.
- 16) 福永哲, 山本順司, 他. 外科治療 腹腔鏡下結腸切除. *消化器外科* 28:764-776, 2005.
- 17) 大矢雅敏, 山本順司, 他. 外科治療 低位前方切除術. *消化器外科* 28:730-738, 2005.
- 18) 上野雅資, 山本順司, 他. 多重癌の検診.

日本語論文

- 1) 佐野力, 小菅智男, 他. 特集: 肝内胆管癌 up-to-date 胆管浸潤型肝内胆管癌の画像診断. *消化器画像* 7:789-798, 2005.
- 2) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 特集: 良悪性境界病変に対する治療方針 肝癌類似病変の治療方針. *消化器外科* 28:1631-1641, 2005.
- 3) 島田和明, 小菅智男, 他. 癌治療のプロトコール 2005-2006 VI. 胆嚢癌治療のプロトコール. *臨床外科* 60:201-207, 2005.
- 4) 小菅智男, 他. 特集: 基本的手術手技のコツとその応用 血管周囲の郭清. *消化器外科* 28:1391-1394, 2005.

- 消化器外科 28:635-640, 2005.
- 19) 中尾 昭公. 浸潤性膵管癌の診療. 日本医師会雑誌 133:367-371, 2005.
- 20) 金住直人, 中尾 昭公. 膵損傷のリカバリー. 手術 59:337-340, 2005.
- 21) 呉 成浩, 中尾 昭公, 他. 膵頭部癌における double duct sign を用いた門脈浸潤診断に関する検討. 日本臨床外科学会雑誌 66:1012-1015, 2005.
- 22) 加藤公一, 中尾 昭公, 他. 門脈浸潤・リンパ節転移を認めた TS1 膵癌の 1 例. 肝胆膵治療研究会誌 3:50-54, 2005.
- 23) 藤井 努, 中尾 昭公. 非機能性膵内分泌腫瘍の治療方針. 消化器外科 28:1647-1655, 2005.
- 24) 阪井 満, 中尾 昭公, 他. 膵併存癌 (duct-acinar cell carcinoma) の 1 切除例. 日本消化器外科学会雑誌 38:1821-1827, 2005.
- 25) 中尾 昭公, 他. 膵頭十二指腸第 II 部切除術. 手術 59:1933-1937, 2005.
- 26) 山田 豪, 中尾 昭公, 他. 胆管狭窄を伴った Churg-Strauss 症候群と考えられた 1 例. 日本臨床外科学会誌 66:921-925, 2005.
- 27) 下山理史, 中尾 昭公. 癌に対するウィルス療法. 日本臨牀 64:589-596, 2006.
- 28) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 切除不能膵癌に対する 5-FU 肝膵局所動注および gemcitabine 全身化学療法. 膵臓 20:416-417, 2005.
- 29) 松山 裕. 医学研究のデザイン概論 1—ランダム化比較試験—. Surgery Frontier 12:80-84, 2005.
- 30) 松山 裕. 医学研究のデザイン概論 2—疫学研究—. Surgery Frontier 12:85-90, 2005.
- 31) 松山 裕. 統計的仮説検定と治療効果の推定. Surgery Frontier 12:91-96, 2005.
- 32) 松山 裕. サンプルサイズ的设计. Surgery Frontier 12:97-101, 2005.
- 33) 上野秀樹, 他. 切除不能膵癌に対する化学療法、放射線療法. Medical Practice 22:305-310, 2005.
- 34) 奥坂拓志, 上野秀樹, 他. 原発性肝癌. 特集 エビデンスに基づいた 癌化学療法. 外科 67:434-440, 2005.
- 35) 上野秀樹, 他. 進行膵癌の化学療法—現状と将来. 特集 進行膵癌への挑戦. 消化器画像 7:667-672, 2005.
- 36) 上野秀樹, 他. ゲムシタビンの薬理ゲノム学—シチジンデアミナーゼの遺伝子多型—. がん分子標的治療 4:47-51, 2005.
- 37) 上野秀樹, 他. 切除不能膵癌の治療. コンセンサス癌治療 2005-2007, 5.(in press)
- 38) 上野秀樹, 他. 膵癌治療における経口フッ化ピリミジンの役割—現状と今後の展望—. Mebio Oncology, 3. (in press)
2. 学会発表
国際学会
- 1) Kosuge T. Multicenter Randomized Controlled Trials to Evaluate Effectiveness of Adjuvant Chemotherapy for Pancreatic Cancer --- Japanese Experience. 15th World Congress of International Association of Surgeons and Gastroenterologists (and ncologists) 第 15 回世界外科学消化器病会議, 2005/9, プラハ, チェコ.
- 2) Kosuge T. Extended Lymph Node Dissection with Vascular Reconstruction in Pancreatic Cancer Surgery. 第 6 回中日肝胆膵シンポジウム, 2005/4, 北京, 中国.
- 3) Hatori T, et al. The role of the portal-mesenteric vein resection for the pancreatic head carcinoma. 37th European Pancreatic Club(EPC) Meeting. 2005/7, Graz, Austria.

- 4) Fukuda A, Hatori T, et al. 37th European Pancreatic Club(EPC) Meeting. Usefulness of CT-guided splanchnic nerve block for controlling pancreatic cancer pain, 2005/7, Graz, Austria.
- 5) Kanai N, Hatori T, et al. A clinical analysis of the minimally invasive pancreatectomy without lymphadenectomy for intraductal papillary-mucinous neoplasms(IPMNs). 37th European Pancreatic Club(EPC) Meeting, 2005/7, Graz, Austria.
- 6) Hatori T, et al. Carcinoma in situ of the pancreas : 3 case reports. 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association, 2005/11, Chicago, USA.
- 7) Hatori T, et al. Clinicopathological features and surgical management for intraductal papillary-mucinous neoplasm 36th Annual Meeting of the American Pancreatic Association, 2005/11, Chicago, USA.
- 8) Nakao A. Trends in Pancreatic Cancer Management. The Joint Meeting of the 30th Annual Scientific Meeting of the Royal College of Surgeons of Thailand and the 15th Asian Congress of Surgery., 2005/7, Pattaya, Thailand.
- 9) Nakao A. Current Management of Pancreatic Cancer. The Joint Meeting of the 30th Annual Scientific Meeting of the Royal College of Surgeons of Thailand and the 15th Asian Congress of Surgery., 2005/7, Pattaya, Thailand.
- 10) Nakao A. Indications and techniques of extended resection for malignant pancreatic tumors (lymphadenectomy, portal vein and arterial resection/reconstruction). International Surgical Week ISW 2005 41st World Congress of Surgery of ISS/SIC., 2005/8, Durban, South Africa.
- 11) Nakao A. Isolated pancreatoduodenectomy for pancreatic cancer. 15th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/9, Prague, Czech Republic.
- 12) Nakao A. Treatment of the cystic neoplasms of the pancreas. 2005.9.29. II International Meeting of Digestive Surgery., 2005/9, Asti, Italy.
- 13) Nakao A. Pancreatic cancer: recent perspectives and controversies. The IX Meeting of the Biliary Pancreatic Spanish Club., 2005/11, Valencia, Spain.
- 14) Otani S, Nakao A, et al. Two cases of surgically treated pancreatic cancer of rare histological type. 13th International Postgraduate Course of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/12, Athens, Greece.
- 15) Nakao A. Refined surgical techniques in the management of carcinoma of the pancreas. 2005.12. 13th International Postgraduate Course of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/12, Athens, Greece.
- 16) Nakao A. Pancreatic head resection with segmental duodenectomy (PHRSD) for intraductal papillary mucinous tumor (IPMT) of the pancreatic head. XXVIII International Meeting of Surgery., 2005/6, Madrid, Spain.
- 17) Nakao A. Oncological problem in pancreatic cancer surgery. XXVIII International Meeting of Surgery., 2005/6,

- Madrid, Spain.
- 18) Nakao A. Clinical significance of portal vein resection in pancreatic cancer. XXVIII International Meeting of Surgery., 2005/6, Madrid, Spain.
 - 19) Nakao A. Trends in Pancreatic Cancer Management. The Joint Meeting of the 30th Annual Scientific Meeting of the Royal College of Surgeons of Thailand and the 15th Asian Congress of Surgery., 2005/7, Pattaya, Thailand.
 - 20) Nakao A. Current Management of Pancreatic Cancer. The Joint Meeting of the 30th Annual Scientific Meeting of the Royal College of Surgeons of Thailand and the 15th Asian Congress of Surgery., 2005/7, Pattaya, Thailand.
 - 21) Nakao A. Indications and techniques of extended resection for malignant pancreatic tumors (lymphadenectomy, portal vein and arterial resection/reconstruction). International Surgical Week ISW 2005 41st World Congress of Surgery of ISS/SIC., 2005/8, Durban, South Africa.
 - 22) Nakao A. Isolated pancreatoduodenectomy for pancreatic cancer. 15th World Congress of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/9, Prague, Czech Republic.
 - 23) Nakao A. Treatment of the cystic neoplasms of the pancreas. 2005.9.29. II International Meeting of Digestive Surgery., 2005/9, Asti, Italy.
 - 24) Nakao A. Pancreatic cancer: recent perspectives and controversies. The IX Meeting of the Biliary Pancreatic Spanish Club., 2005/11, Valencia, Spain.
 - 25) Otani S, Nakao A., et al. Two cases of surgically treated pancreatic cancer of rare histological type. 13th International Postgraduate Course of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/12, Athens, Greece.
 - 26) Nakao A. Refined surgical techniques in the management of carcinoma of the pancreas. 13th International Postgraduate Course of the International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/12, Athens, Greece.
 - 27) Nakao A. Pancreatic head resection with segmental duodenectomy (PHRSD) for intraductal papillary mucinous tumor (IPMT) of the pancreatic head. XXVIII International Meeting of Surgery., 2005/6, Madrid, Spain.
 - 28) Nakao A. Oncological problem in pancreatic cancer surgery. XXVIII International Meeting of Surgery., 2005/6, Madrid, Spain.
 - 29) Nakao A. Clinical significance of portal vein resection in pancreatic cancer. XXVIII International Meeting of Surgery., 2005/6, Madrid, Spain.
 - 30) Mori T, Doi R., et al. Regulation of Trail-induced apoptosis in pancreatic cancer cells. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
 - 31) Kami K, Doi R., et al. Down-regulation of survivin with si-RNA treatment can decrease the radio-resistance in pancreatic cancer cells. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
 - 32) Koizumi M, Doi R., et al. Pancreatic epithelial cells can be converted into

- insulin-producing cells by GLP1 in conjunction with virus-mediated gene transfer of pdx-1. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 33) Fukuda A, Doi R, et al. Inactivation of pdx-1 causes agenesis of duodenal papilla resulting in common bile duct stones. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 34) Kawaguchi Y, Doi R, et al. The role of pdx-1 in exocrine pancreas development. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 35) Kuhara T, Doi R, et al. Experimental trial of ectopic pancreas induction by adenoviral expression of ptf1a. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 36) Kataoka K, Doi R, et al. Reduced expression of tuberin is associated with pancreatic cancer development. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 37) Ito D, Doi R, et al. Increased expression of tumor-associated antigen RCAS1 along with PanIN progression to invasive pancreatic adenocarcinoma. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 38) Furuyama K, Doi R, et al. Expression of focal adhesion kinase is not a prognostic marker in pancreatic cancer patients. 66th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2005/2, Nashville, U.S.A..
- 39) Toyoda E, Doi R, et al. Midkine promoter-based conditionally replicative adenovirus for gene therapy of pancreatic cancer. 37th European Pancreatic Club (EPC) Meeting, 2005/7, Graz, Austria.
- 40) Kami K, Doi R, et al. A new combined therapy of an oncolytic replication-competent HSV-1 vector using survivin promoter and radiation for pancreatic cancer. 37th European Pancreatic Club (EPC) Meeting, 2005/7, Graz, Austria.
- 41) Fukuda A, Doi R, et al. A novel role of notch pathway in region-specific induction of pancreatogenesis by regulating ptf1a expression. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 42) Furuyama K, Doi R, et al. Co-expression of pdx-1 and ptf1a initiates full-scale pancreatogenesis in undifferentiated endoderm. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 43) Horiguchi M, Doi R, et al. Wright, C.V.. Adult pancreatic exocrine tissue is maintained by self-duplication of the existing cells. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 44) Ito D., Doi R, et al. Bcl-XL antisense oligonucleotides coupled with antennapedia enhances radiation-induced apoptosis in pancreatic cancer. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 45) Kami K, Doi R, et al. A novel combined therapy with oncolytic replication-competent HSV-1 vector plus gemcitabine for pancreatic cancer. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..

- 46) Kida A, Doi R, et al. Prognostic implication of strong expression of the smad ubiquitin ligase smurf2 in human pancreatic cancer. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, February 8-11, 2006,, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 47) Koizumi M, Doi R, et al. Enforced expression of pdx-1 induced insulin production in intestinal epithelia. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 48) Kuhara T, Doi R, et al. Transient ptf1a mis-expression converts mouse embryonic foregut to pancreas tissue capable of ameliorating streptozotocin-induced hyperglycemia. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 49) Wada M, Doi R, et al. ICTP is a potent bioactivity marker in pancreatic cancer. 67th Annual Meeting of Society of University Surgeons, 2006/2, San Diego, U.S.A..
- 50) Nakahira S, Monden M, et al. Schedule-dependent antitumor effects of gemcitabine and S-1, a novel oral derivative of 5-fluorouracil, in human pancreatic cancer xenografts.. Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology (ASCO)2005, 2005/5, Florida, USA.
- 51) Nakamori S, Monden M, et al. Multicenter phase II study of pre-administrated uracil/tegafur (UFT) plus gemcitabine for unresectable/recurrent pancreatic cancer.. Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology (ASCO)2005, 2005/5, Florida, USA.
- 52) Nakahira S, Monden M, et al. Enhancement of gemcitabine antitumor effects by pretreatment of S-1, a novel oral derivative of 5-fluorouracil, in pancreatic cancer.. ECCO13 the European Cancer Conference, 2005/10, Paris, FRANCE.
- 53) Nakahira S, Monden M, et al. Schedule-dependent antitumor effects of gemcitabine and S-1 in human pancreatic cancer cells.. 15th International Symposium of the Hiroshima Cancer Seminar, 2005/10, 広島市.
- 54) Ikemoto T, Shimada M, et al. CLINICAL ROLE OF INCREASED POPULATIONS OF FOXP3+CD4+ T CELLS IN PERIPHERAL BLOOD ON ADVANCED PANCREATIC CANCER. 13th International Postgraduate Course, International Association of Surgeons and Gastroenterologists., 2005/12.
- 55) Ikeda M, Ueno H, et al. Phase II study of hyperfractionated with protracted 5-fluorouracil infusion in patients with locally advanced pancreatic cancer. 41th ASCO, 2005/5, Orland.
- 56) Okusaka T, Ueno H, et al. A phase I and pharmacokinetic clinical trial of oral administration of the acyclic retinoid NIK-333. 41th ASCO, 2005/5, Orland.
- 57) Ueno H, et al. Impact of cytidine deaminase genetic polymorphisms on gemcitabine kinetics and toxicity in Japanese cancer patients. 41th ASCO, 2005/5, Orland.

国内学会

- 1) 佐野力, 小菅智男, 他. 肝拡大肝左葉切除尾状葉切除時に切除自家門脈 Y-グラフトで中肝静脈再建を行った 1 例 (ポスター). 日本肝胆膵外科関連会議・横浜 (第 17 回日本肝胆膵外科学会、第 34 回日本胆道外科研究会、第 32 回日本膵切研究会), 2005/6, 横浜.
- 2) 小菅智男, 他. 膵癌切除症例を対象とした補助療法に関する RCT の経験と問題点 (シンポジウム). 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 3) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 胆道癌切除における右肝動脈再建の意義 (ビデオシンポジウム). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術会議, 2005/7, 東京.
- 4) 阪本良弘, 小菅智男, 他. ss, se 胆嚢癌に対する肝外胆管癌切除および拡大切除の意義について (ポスター). 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 5) 日比泰造, 小菅智男, 他. 転移/再発を繰り返しつつ長期経過が追跡し得た膵外 solid-pseudopapillary tumor の 1 例 (一般演題 ポスター). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 6) 佐野力, 小菅智男, 他. 肝膵十二指腸切除術 (HPD) 後仮性肝動脈瘤を未破裂のうちに塞栓した 1 例 (ポスター). 日本肝胆膵外科関連会議・横浜 (第 17 回日本肝胆膵外科学会、第 34 回日本胆道外科研究会、第 32 回日本膵切研究会), 2005/6, 横浜.
- 7) 大屋喜章, 小菅智男, 他. 膵管内乳頭粘液性腫瘍と通常型膵癌の並存 5 症例の検討 (一般演題 ポスター). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 8) 佐野力, 小菅智男, 他. 肝門部胆管癌に対する肝右葉切除、尾状葉全切除、肝外胆管癌切除術—当院での標準術式— (ビデオセッション). 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 9) 島田和明, 小菅智男, 他. 膵癌術後早期再発例の検討 (一般演題 ポスター). 日本肝胆膵外科関連会議・横浜 (第 17 回日本肝胆膵外科学会、第 34 回日本胆道外科研究会、第 32 回日本膵切研究会), 2005/6, 横浜.
- 10) 小菅智男. ワークショップ2 こんなときあなたならどうする. 日本肝胆膵外科関連会議・横浜 (第 17 回日本肝胆膵外科学会、第 34 回日本胆道外科研究会、第 32 回日本膵切研究会), 2005/6, 横浜.
- 11) 佐野力, 小菅智男, 他. 胆管細胞癌に対する外科治療成績と問題点 (パネルディスカッション). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術会議, 2005/7, 東京.
- 12) 佐野力, 小菅智男, 他. 肝左 3 区域切除、尾状葉切除、遊離右胃大網動脈による右肝動脈後区域枝再建を行った胆嚢管癌の 1 例 (一般演題 示説). 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 13) 彭敦發, 小菅智男, 他. 膵臓の前癌症状及び腺管癌における DNMT1 蛋白発現の増加 (Increased DNMT1 protein expression in precancerous conditions and ductal carcinomas of the pancreas) (英語). 第 94 回日本病理学会総会, 2005/4, 横浜.
- 14) 本田一文, 小菅智男, 他. プロテオミクス解析と機械学習法による膵臓がんの血漿腫瘍マーカーの開発. 第 64 回日本癌学会学術総会, 2005/9, 札幌.
- 15) 伴 大輔, 小菅智男, 他. 肝原発と考えられた Carcinoid tumor の 1 例. 第 32 回肝癌症例検討会, 2005/11, 東京.
- 16) 尾島英知, 小菅智男, 他. 胆道領域がん肝側胆管切除断端陽性症例の吻合部再発に関する臨床病理学的検討. 第 94 回日本病理学会総会, 2005/4, 横浜市.
- 17) 本田一文, 小菅智男, 他. 高分解能質量分析装置を利用した膵臓がん血漿診断マ

- カーの開発. 第 25 回日本分子腫瘍マーカー研究会, 2005/9, 札幌市.
- 18) 江崎稔, 小菅智男, 他. 肝切除における流入血遮断時間を評価するランダム化比較試験(RCT) (一般演題 ポスター). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 19) 高橋祐, 小菅智男, 他. 特徴的画像を呈した膵尾部原発巨大 Intraductal papillary-mucinous carcinoma の 2 例 (一般演題 示説). 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 20) 境隆暢, 小菅智男, 他. 膵内分泌腫瘍 多相 CT による再検討. 第 64 回日本医学放射線学会総会, 2005/4, 横浜.
- 21) 佐野力, 小菅智男, 他. 膵頭十二指腸切除後の膵管再建—膵管空腸粘膜吻合術— (特別演題 ビデオサージカルフォーラム). 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 22) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 当院における肝門部胆管癌の治療戦略 (特別演題 ビデオシンポジウム). 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 23) 皆川正巳, 小菅智男, 他. 発生時期別に見た多発肝転移に対する手術適応 (国際シンポジウム). 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 24) 奈良聡, 小菅智男, 他. 腹腔動脈狭窄ないし閉塞を有する患者に対する膵頭十二指腸切除術 (ポスター). 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 25) 島田和明, 小菅智男, 他. 膵管内腫瘍由来の浸潤性膵管癌の臨床病理学的検討 (一般演題 口演). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 26) 高橋祐, 小菅智男, 他. 膵 Solid-pseudopapillary tumor 14 例の検討～女性優位の疾患か? (一般演題 ポスター). 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 27) 細川亜裕, 小菅智男, 他. 膵腺扁平上皮癌の 8 例 (一般演題 示説). 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 28) 金井信雄, 羽鳥 隆, 他. IPMN に対する縮小膵切除は低侵襲手術になりうるか?. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 29) 高山敬子, 羽鳥 隆, 他. Intraductal papillary-mucinous neoplasm(IPMN)の悪性度診断における EUS の有用性について. 第 102 回日本内科学会講演会, 2005/4, 大阪.
- 30) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. Soft pancreas に対する膵管空腸粘膜吻合 no-stent 法. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 31) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 胃内容排泄遅延予防における PPPD ストレート法の有用性の検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 32) 清水公一, 羽鳥 隆, 他. 健. 皮内反応は腫瘍抗原に対する特異的免疫反応と臨床効果の指標となるか?. 第 26 回癌免疫外科学会, 2005/5, 東京.
- 33) 羽鳥 隆, 他. 正常膵における膵切除の工夫と膵管空腸粘膜・粘膜吻合 no-stent 法. 第 17 回日本肝胆膵外科学会, 2005/6, 横浜.
- 34) 羽鳥 隆. IPMN/MCN の診療ガイドラインをめぐる. 第 17 回日本肝胆膵外科学会, 2005/6, 横浜.
- 35) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 切除不能膵癌・再発膵癌の癌性疼痛に対する CT 下内臓神経ブロックの有用性の検討. 第 17 回日本肝胆膵外科学会, 2005/6, 横浜.
- 36) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. 超高齢者 (91 歳) 膵癌における膵体尾部切除術の経験. 第 17 回日本肝胆膵外科学会, 2005/6, 横浜.

- 37) 金井信雄, 羽鳥 隆, 他. 膵全摘術後の異時性肝転移に対し3回の肝切除を施行し, 長期生存を得た悪性膵内分泌腫瘍の1例. 第17回日本肝胆膵外科学会, 2005/6, 横浜.
- 38) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵の Intraductal oncocytic papillary neoplasm の一切除例. 第17回日本肝胆膵外科学会, 2005/6, 横浜.
- 39) 羽鳥 隆, 他. Training surgeons for pancreatodudenectomy-The training program at Tokyo Woman's Medical University. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 40) 羽鳥 隆, 他. 形態的評価からみた IPMN の手術適当と術式選択. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 41) 鬼澤俊輔, 羽鳥 隆, 他. 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) における同時性, 異時性悪性腫瘍依存に関する検討. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 42) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 健. リンパ節郭清からみた膵頭部癌に対する全胃幽門輪温存膵頭十二指腸切除の適応について. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 43) 羽鳥 隆, 他. 切除例からみた IPMN 癌症例の手術適応と術式選択. 第36回日本膵臓学会大会, 2005/7, 東京.
- 44) 大原敏哉, 羽鳥 隆, 他. 急速な増大を示した膵腺房細胞癌の一例. 第36回日本膵臓学会大会, 2005/7, 東京.
- 45) 大原敏哉, 羽鳥 隆, 他. 膵腺扁平上皮癌の臨床的特徴について. 第47回日本消化器病学会大会, 2005/10, 神戸.
- 46) 金井信雄, 羽鳥 隆, 他. 若年女性に発症した浸潤性膵粘液性嚢胞腺癌 (MCC) の1切除例. 第47回日本消化器病学会大会, 2005/10, 神戸.
- 47) 中尾昭公. 膵癌治療の現況と展望. 第23回愛知臨床外科学会, 2005/2, 名古屋.
- 48) 石川忠雄, 中尾昭公, 他. 出血性十二指腸潰瘍にて発祥した進行膵頭部癌の1例. 第269回東海外科学会, 2005/4, 名古屋.
- 49) 中山茂樹, 中尾昭公, 他. 進行膵癌術後補助化学療法への適応 (5FU vs gemcitabine). 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 50) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 膵癌における神経浸潤の臨床病理学的検討. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 51) 日比健志, 中尾昭公, 他. 膵癌における Cadherin family の DNA 異常メチル化の検討. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 52) 野本周嗣, 中尾昭公, 他. 膵頭部癌の神経浸潤と Autocrine motility factor (AMF) および receptor (AMFR) の発現との関連. 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 53) 加藤 公一, 中尾昭公, 他. 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後の膵胃吻合部に生じた膵癌の1例. 第36回日本膵臓学会大会, 2005/7, 東京.
- 54) 金住直人, 中尾昭公, 他. 膵癌手術における血管合併切除の意義. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 55) 金子哲也, 中尾昭公, 他. 局所進行膵頭部癌に対する治療方針. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 56) 粕谷英樹, 中尾昭公, 他. 難治性膵癌に対する腫瘍特異的増殖型ヘルペスウイルスの可能性. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 57) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後膵胃吻合部癌の1例. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 58) 中尾昭公. 膵がん治療の現状と展望. 第

- 43 回日本癌治療学会総会, 2005/10, 名古屋.
- 59) 金住直人, 中尾昭公, 他. TS, DPD からみた進行膵癌 dpm(+)症例の治療について. 第 43 回日本癌治療学会総会, 2005/10, 名古屋.
- 60) 金住直人, 中尾昭公, 他. TS, DPD による dpm(+)切除膵癌の治療. 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 61) 竹田 伸, 中尾昭公, 他. 膵癌における血管合併切除例の検討. 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 62) 井上総一郎, 中尾昭公, 他. 主膵管狭窄所見を契機に診断された膵管内乳頭粘液腺癌の 1 例. 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/11, 東京.
- 63) 土井隆一郎, 他. 膵内分泌腫瘍の臨床病理学的特徴に基づいた治療指針. 第 94 回日本病理学会総会, 2005/4, 横浜.
- 64) 土井隆一郎, 他. 膵癌の進展度を基準にみた拡大手術の意義. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 65) 上和広, 土井隆一郎, 他. サバイビンプロモーターを組み込んだ制限増殖型単純ヘルペスウイルス 1 型ベクターと Gemcitabine 併用による膵癌治療. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 66) 森友彦, 土井隆一郎, 他. 膵癌細胞の TRAIL 感受性抵抗因子を標的とした治療法開発. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 67) 川村純一郎, 土井隆一郎, 他. ガストリノーマにおける PDX-1 の発現の検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 68) 藤本康二, 土井隆一郎, 他. 膵切除術は安全に施行しえるか? 当科で施行した最近 3 年間の膵切除 103 例における術後合併症の解析から. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 69) 伊東大輔, 土井隆一郎, 他. 浸潤性膵管癌における tuberin 発現減弱の意義. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 70) 久原毅, 土井隆一郎, 他. ptfla 導入による異所性膵誘導の検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 71) 小泉将之, 土井隆一郎, 他. GLP-1 および PDX-1 による温度感受性不死化膵上皮細胞の内分泌細胞への分化誘導. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 72) 森章, 土井隆一郎, 他. ^{99m}Tc-GSA シンチグラフィーによる経皮経肝門脈枝塞栓術後の肝再生評価. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 73) 河本泉, 土井隆一郎, 他. MEN-1 型に伴う十二指腸ガストリノーマに対する PPTD の適応. 第 36 回日本膵臓学会, 2005/7, 東京.
- 74) 小泉将之, 土井隆一郎, 他. アデノウイルス PDX-1 遺伝子導入による消化管上皮でのインスリン産生細胞の誘導. 第 36 回日本膵臓学会, 2005/7, 東京.
- 75) 上和広, 土井隆一郎, 他. 制限増殖型単純ヘルペスベクターと放射線照射併用による膵癌治療. 第 36 回日本膵臓学会, 2005/7, 東京.
- 76) 木田陸士, 土井隆一郎, 他. HDAC 阻害剤による膵癌細胞株における TRAIL 感受性制御. 第 36 回日本膵臓学会, 2005/7, 東京.
- 77) 富田努, 土井隆一郎, 他. 膜型脂肪酸受容体, GPR40 のヒト膵および膵島細胞腫における遺伝子発現. 第 42 回日本臨床分子医学会学術総会, 2005/7, 京都.
- 78) 富田努, 土井隆一郎, 他. 膜型中鎖鎖脂肪酸受容体, GPR40 のヒト膵および膵島における遺伝子発現. 第 78 回日本内分泌学会, 2005/7, 東京.

- 79) 富田努, 土井隆一郎, 他. 膜型中長脂肪酸受容体, GPR40 のヒト膵および膵島における遺伝子発現. 第 48 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2005/5, 神戸.
- 80) 上和広, 土井隆一郎, 他. ヒト膵癌に対する放射線と制限増殖型 HSV-1 ベクター併用治療. 第 64 回日本癌学会, 2005/9, 札幌.
- 81) 中森正二, 門田守人, 他. ヒト膵癌細胞株における Gemcitabine 代謝関連遺伝子発現性と薬剤感受性に関する検討. 第 64 回日本癌学会学術総会, 2005/9, 札幌.
- 82) 中平伸, 門田守人, 他. 膵癌に対する TS-1/Gemcitabine(GEM)併用化学療法の基礎的検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 83) 中平伸, 門田守人, 他. 膵癌における Gemcitabine 耐性機序の基礎的検討. 日本肝胆膵外科関連会議, 2005/6, 横浜市.
- 84) 武田裕, 門田守人, 他. 切除可能進行膵癌に対する Gemcitabine と加速多分割照射法を用いた術前放射線化学療法. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 85) 中平伸, 門田守人, 他. ヒト膵癌細胞株 7 株を用いた Gemcitabine 代謝関連因子と薬剤感受性に関する基礎的検討. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 86) 中平伸, 門田守人, 他. 膵癌における Gemcitabine 耐性機序への Ribonucleotide reductase M1 subunit (RRM1) の関与. 第 64 回日本癌学会学術総会, 2005/9, 札幌市.
- 87) 中平伸, 門田守人, 他. 膵癌再発症例における Ribonucleotide reductase M1 subunit (RRM1) と Gemcitabine 耐性との関連. 第 43 回日本癌治療学会総会, 2005/10, 名古屋市.
- 88) 池本哲也, 島田光生, 他. 進行膵癌に対する新しい治療戦略. 第 60 回日本消化器外科学会, 2005/7, 東京.
- 89) 池本哲也, 島田光生, 他. 高度進行膵癌に対する開腹放射線照射療法. 第 67 回日本臨床外科学会, 2005/11, 東京.
- 90) 三宅講太郎, 島田光生, 他. 名古屋 IFN-a は膵臓癌に対する TS-1 の抗腫瘍効果を増強する. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 91) 三宅講太郎, 島田光生, 他. 膵臓癌に対する IFN-a と TS-1 併用による抗腫瘍効果の検討. 第 43 回癌治療学会総会, 2005/10, 名古屋.
- 92) 三宅講太郎, 島田光生, 他. 膵癌における TS, DPD, TP, OPR1 mRNA の発現と臨床病理学的意義の検討. 第 67 回日本臨床外科学会総会, 2005/9, 東京.
- 93) 大内田研宙, 田中雅夫, 他. 膵癌の術前診断としての膵液中 S100A6 および S100P mRNA の定量的解析の有用性の検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 94) 小倉康裕, 田中雅夫, 他. 膵癌に対するアデノ NK4 と Gemcitabine の併用療法—マウス同所移植モデルでの検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 95) 村上光彦, 田中雅夫, 他. 膵癌に対する Gemcitabine 添加 Fibrin glue の局所投与の効果—マウス同所移植モデルでの検討. 第 105 回日本外科学会定期学術集会, 2005/5, 名古屋.
- 96) 小倉康裕, 田中雅夫, 他. 膵癌に対する Gemcitabine 添加 Fibrin glue 局所投与の効果—マウス同所移植モデルでの検討. 第 64 回日本癌学会学術総会, 2005/9, 札幌.
- 97) 小倉康裕, 田中雅夫, 他. 膵癌に対する Gemcitabine 添加 Fibrin glue 局所投与の効果—マウス同所移植モデルでの検討. 第 64 回日本癌学会学術総会, 2005/9, 札幌.
- 98) 山口幸二, 田中雅夫, 他. 膵癌 (切除と非切除) に対する放射線療法. 第 43 回日本

- 癌治療学会総会, 2005/10, 名古屋.
- 99) 金光敬一郎, 他. 膵癌に対する術中照射併用根治手術. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 100) 金光敬一郎, 他. 膵島細胞腫瘍の治療成績の検討. 日本肝胆膵外科関連会議 in 横浜, 2005/6, 横浜.
- 101) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 肝転移巣同定を主眼とした手術症例の選別と術前後の血行性転移対策により術後早期の生存成績は改善できる. 第17回日本肝胆膵外科学会(日本肝胆膵外科関連会議 in 横浜), 2005/6, 横浜.
- 102) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 膵癌に対する新しい集学的治療の試み. 第43回日本癌治療学会, 2005/10, 名古屋.
- 103) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 進行膵癌に対するCTAP+CTHAを用いた肝転移診断と術前後の5-FU肝膵局所動注およびgemcitabine全身化学療法の有用性. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005/7, 東京.
- 104) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 膵癌に対する5-FU肝膵局所動注およびgemcitabine全身化学療法. 第91回日本消化器病学会, 2005/4, 東京.
- 105) 高森啓史, 金光敬一郎, 他. 膵癌保有生体における糖代謝異常の検討—通常型膵管癌手術症例において—Analysis of abnormal glucose metabolism in patients with pancreatic adenocarcinomas. 第36回日本膵臓学会, 2005/7, 東京.
- 106) 上野秀樹, 他. 進行膵癌の予後改善を目指す治療戦略. 第91回日本消化器病学会総会, 2005/4, 東京.
- 107) 池田公史, 奥坂拓志, 上野秀樹, 他. 門脈腫瘍栓を有する肝細胞癌に対する高用量塩酸エピルビシンによる肝動注化学療法. 第41回日本肝癌研究会, 2005/6, 千葉市.
- 108) 上野秀樹, 他. ゲムシタビンの投与を請けたがん患者を対象とした薬理ゲノムの研究. 第64回日本癌学会学術総会, 2005/9, 札幌市.
- 109) 上野秀樹, 他. ゲムシタビンの薬物動態および毒性に対するCDA遺伝子—塩基多型(SNP)の影響. DDW-Japan2005, 2005/10, 神戸市.
- 110) 池田公史, 上野秀樹, 他. 肝外転移を有する肝細胞癌に対するFMP療法の治療成績と効果・予後因子. DDW-Japan2005, 2005/10, 神戸市.
- 111) 森実千種, 上野秀樹, 他. 遠隔転移を有する膵がん患者の予後予測式の作成と検証. 第43回日本癌治療学会, 2005/10, 名古屋市.
- 112) 名嶋弥菜, 上野秀樹, 他. 測定不能な微小遠隔転移病変を有する膵癌例に対する放射線化学療法の臨床第II相試験. 第43回日本癌治療学会, 2005/10, 名古屋市.